
とある冒険～星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ～

ダイヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある冒険～星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ～

【Zコード】

Z3750Z

【作者名】

ダイヤ

【あらすじ】

ある世界でソニックがいつものように仲間達とそこら辺を走っていたらいきなり目の前に謎の穴が現れて皆を吸い込んでしまったソニックが目を覚ますと謎の世界が広がっていた そして目の前には謎の女の子がそしてソニックは仲間を探すためその女の子と新たな冒険を始めるがその女の子にはある秘密がー！？
ソニックシリーズ大冒険！

プロローグ（前書き）

一回書いてみたかった冒険小説 良ければ見てください！

プロローグ

自分という物がある感触はある

周りにあるのは 間 何処を見回してもすべて黒一色で他には何もない

自分は誰？

ハジメテル。

でも

自分の顔も 男なのかも女なのかもすべて

わからない

自分は誰？

自分は何者？自分は誰？

すべてがわからない

「どうしてこんなにもなにもかもがわからないのに自分がいるとわかるのか？」

どんなに考えても考え方られない

まるで

考えるなと言われるよ(つこ)

体も動かない 考える事も出来ない ここが何処なのかも 自分が

誰なのか全て

分からぬ

でもなんで自分がいるとわかる?それもわからない

わかるのは 間

自分という存在

他には

何も

わからない

ここは謎の 間

とある 間

そして何処からか声が聞こえた

「お前は……だ……の……なんだ……奇跡の……だ……」

なぜか意識が朦朧としてとじるがかかるれて聞こえない

「だそ……必ず……だそ……そして……必ず……必
ず……」

何を伝えたい？何を言いたい？

何かが見えてきた

光だ

また声が聞こえてきた

「これからお前は……」

全部聞を取る前に光は自分を包みこんだ

そして

世界が変わった

闇から

光に

ここから

全てが始まる

プロローグ（後書き）

感想まとめ（つづかねこ）

始まり（前書き）

この小説はソニックとオリジナルキャラの女の子が主役です

始まり

「」とある草原そこには青い針鼠との仲間達がいた

ソニック「今日もいい天気だなー！」

テイルス「そうだねソニック」

ソニックの言葉に返事を返す2本の尻尾を持つ狐マイルス・パウワーリーとテイルス ソニックの相棒だ

ソニック「のんびり過ごすのもいいが最近暇だぜ」

テイルス「平和も良いことだよ確かに最近ひまだけど

「」
HIIー「じゃあ私とテートしてー

そう言ってソニックをテートに誘うピンクの針鼠HIIー・ローズ
ソニックが大好きな女の子だ

ソーシャル断る術

そう言つて逃げるソーック

HIII-「まひなわーいー..」

ヒーラーもお馴染みのペラペラハンマーを取り出してソーグを追いかける

テイルス「やれやれ……」

テイルスも呆れながら一人を追い掛ける

ソーック「ここまで来れば安心だろ……ん？」

逃げてるソニックが見つけたのは白い穴 分かりやすくいうと小さめのブラックホールの白い版

ソニック「なんだこれ…」

ソニックがその穴を見ていると…

Hリー「なに見てるの？」

テイルス「どうしたの？」

自分に追い付いた二人がいた

ソニック「Hey! 一人共あれ見てくれ」

ソニックはそう言ってさつきの穴を指差す

Hリー「何あれ？」

テイルス「穴…？」

ソニック「今見つけたんだ」

3人がそう言って穴を見ていると…

「ゴオオオオオ！」

ソニック「！？」

いきなり穴が大きくなつて周りの物を吸い込み始めた

ソニック「な、なんだ！？」

テイルス「うわわ！！」

「ハハハ」「キャー！」

そして穴は完全に広がりソニック達を吸い込んで穴は消えた

ソニック「う……！」は……？」

ソニックが目を覚ますとそこはまたいつもまでの違い
花が咲いている原っぱにいた

ソニック「ここは何処だ！？テイルス達は？」

仲間が居ない事に気付くソニック

ソニック「はぐれたか…探しにいくか」

やつらつて原っぱを駆け抜けるソニック

ソニックが仲間を探しているとある一人の女の子が倒れていた

ソニック「お、おい大丈夫か？」

？？？「…うう

女の子は田を覚ましてソニックを見た

？？？「助けてくれたのか？」

ソニック「いや、倒れていたんだ、大丈夫か？」

？？？「ああ、平氣だ」

その女の子の見た目と格好は見た田は紫色の針鼠でなぜか黒い羽根
があり黒いワンピースを着ていて黒いブーツをはいでいる

ソニック「なんでこんな所で倒れていたんだ？」

？？？「えつと…」

その女の子は思い出している

????「わからない…」

ソニック「へ？」

????「確かに何故か走っていて疲れて氣を失ったんだ」

アバウトな説明にソニックも困っている

20

ソニック「まあ…仕方ないか…俺はソニックザヘッジホッグだ宣しくなーーお前は？」

????「自分は…」

そつぱりて自分の名前を言わないとあるが…

????「…わからない」

ソニック「…え? まさかお前…」

？？？「記憶がない……なにもかも……何も思い出せない……」

ソニック「なんて事だ……」

ソニックとその女の子はその場に立つたままだった……

続く

始まり（後書き）

感想待つてまーす

記憶のない少女

ソニック「記憶がないなんてな……」

「すいません」

ソニック「いや、ここ

「…」

ソニック「じゃあ、これからは戻をつけよう」

「何処かいくのか?」

ソニック「仲間を探すのを

「仲間を?」

ソニック「あ

ソニックせりふコードをせらわた由い六の事を話した

????「へえ……」

ソニック「じゃあな

????「あ……あの……」

ソニック「?

????「俺もついていくっていいか?」

ソニック「へ? (こいつ俺系なんだ……)

????「お前には助けて貰つたし……お前の仲間を探してれば記憶が
戻るかもだし……」

ソニック「別にいいぜ、でもお前をなんと呼べばいい?」

????「ん~……」

考える彼女を見てソニックは

ソニック「リングでどうだ？」

？？？「は？」

ソニックの発言に田丸を丸くする

ソニック「手首にリングが付いてるしさ」

？？？「…」

彼女が手首を見ると確かに銀色のリングがついていた

ソニック「どうだ？」

？？？「いいぞ」

ソニック「よしーじゃあ宜しくなリングーー。」

リング「あー」

二人は握手をして仲間を探すそしてリングの記憶を探すための旅に出るしかしこれからソニック達が凄い冒険をするなんて誰も知るよしもなかつた…

？？？「あいつを見つけた…至急作戦を実行する…」

木の上で誰かが無線機を使って話している

？？？「ああ…わかつてゐまた連絡する
「

ぴ
っ

通信を切つた音がした

? ? ? 「 … まづは様子を見とくか … 」

謎の人物はソニックとリングを見つめていた…

記憶のない少女（後書き）

一応今のところのリングのプロフィールです

名前	リング（仮）
年齢	不明
性別	女
身長	105?
体重	秘密
一人称	俺

かなり男っぽい性格 ソニック同様挑戦的

これは今のところのリングのプロフィールです

クリスタル村と…（前書き）

今回は新たなるオリジキャラがでます

クリスタル村と…

ソニックとリングは仲間を探すために走っていたリングは走りはそこまで速くないが飛ぶとソニック並の速さになる

ソニック「お前は飛ぶとはやいな」

リング「ああ 何故かな」

そんなこんなで…

クリスタル村オリジナル

ソニック「綺麗な村だな」

リング「ああ」

テイルス「ソニック！！」

ソニック「テイルス！！」

なんとクリスタル村にテイルスがいた

テイルス「誰?」

リングを見て不思議に思いつテイルス

ソニック「こいつは…」

ソニックは説明をした

テイルス「へえ…」

ソニック「どうで此処が何処かわかるか?あの白い穴の事も…」

テイルス「実はまだわからないんだよ…でもこりは異世界って言つことはできるよ」

ソニック「そりか…」

テイルス「僕はもう少しここで調べとべからせじら辺を走っていたら…エミーもこいつにこるだらうし…」

ソニック「そりあるか… リングは哪儿にある?」

リング「ソニックにつれて…」

ソニック「じゃ あ頼むぜテイルス」

テイルス「うん!—」

そしてソニックとリングは走っていった

ソニック「こゝは…」

リング「…」

ソニック達は今森の前にいた

ソニック「いくとするか」

リング「…」

リングも頷いて森に入っていく

30分後

ソニックとリングは森の一番奥で休んでいた

ソニック「ふ…どうだなんか思い出せそうか?」

リング「…」

リングは黙つて首を横にふった

????「見つけたぞ!」

ソニック リング 「！？」

そう言ってソニック達の前に現れたのはカラスの男（ジエットの黒い版だと思ってください）

ソニック「誰だ？」

？？？「名乗る必要なんかない」

ソニック「リングの知り合いか？」

リング「知らない」

？？？「リングが名前か」

リング「いいや、これは仮の名前だ」

？？？「記憶がないのか」

リング「そりだが」

ソニック「そんなことよりお前の目的はなんなんだ?俺達になんか
よつか?」

? ? ? 「おっと、確かにあんまり無駄話してる場合じゃなかつたな
俺はお前ではなくお前に用があるんだ」

そう言ってリングを見る

リング「…」

ソニック「リングを知ってるのか?」

? ? ? 「詳しくは知らないがな」

リング「俺になんの用があるんだ」

? ? ? 「…」

リングが聞くと男は自分の背中にある銃を取り出して銃口を一人に

向けて言つた

「あの方の命令によつてリングー！貴様を捕らへるー。」

クリスタル村と...（後書き）

感想待つてます

じめる画事企業（前書き）

今日は? ? ? の事が少しわかります

のある軍事企業

ソニック達は？？？の言葉にびっくりしていた

リング「俺を捕らえるーー？」

ソニック「どういふ意味だよお前ーー？」

？？？「そのままの意味だ俺はリングを捕らえに来たそれでいいだ
う。」

ソニック「よくねえよーどうしてリングを狙つ？」

？？？「お前わからないのか？そいつの価値を

ソニック「まあ？」

？？？「ふん」

リング「人をまるでもの扱いして……名前も名乗らず失礼な奴だ

？？？「まあそうだな……じゃあ教えてやるよ俺はブラック、ブラック

ク・クロウだ」

ブラック・クロウと名乗る男そして一人に銃をむけるしかし一人が
ここであつたり諦めるわけがない

ブラック「あの時はぬかつたがもうあんなミスはしない！」

ソニック「あの時？」

ブラック「言つ必要ない」

ソニック「…」

ブラック「…」

ソニック「今だ！！」

ソニックが一瞬の隙をついてロングを抱えて逃げ出した

リング「うわー？」

ブラック「ー待て！」

隙をつかれて必死に追い掛けながら銃を撃つブラックしかソニックはそんなの慣れっこだ銃のたまを避けていく

ブラック「ちつー！」

ソニックの速さに敵わず差をつけられる

ブラック「ちつ…まあいいまだまだチャンスはたくさんある」

諦めるブラックと逃げ続けるソニック

森の入り口前

ソニック「ここまで来れば安心だな…」

リング「どうあえず下ろしてくれ…」

ソニックにお姫様だつ」それ顔を赤くしていのリング

ソニック「ああ

リング「ふう……

ソニック「それよりあこつは何なんだーー？」

リング「わからない……

ソニック達が悩んでいると……

「…」「わかった心つかつたのか？」

ソニック リング 「…？」

そこには先程引き離したブラック・クロウがいた

ソニック「な 何故！？」

ブラック「こんな森で引き離したとしても逃げそうな場所位わかる」

ソニック「なるほど…」

リング「お前は一体何者なんだ？ビハビして俺を捕らえる…？」

ブラック「俺はとある軍事企業のブラックスターーズの幹部だ」

ソニック リング「軍事企業…？」

ブラック「リングはそのボスからの命令で捕まえると言われている邪魔をするなら消えてもらいつ」

ソニック「へん…やれるものならやつてみなー…」

リング「おこー！こは流石に危険だ…相手は銃があるのこー…」

ソニック「…」

確かにと考えるソニック

ブラック「なら本当に消えてもいいつー。」

銃を構えるブラック

ソニック絶対絶命の大ピンチ！！

ある軍事企業（後書き）

パラダイスの方更新したいけどネタが…

滅びた村と影の謎（福井県）

ヒーリングが叶う一

ブラック「覚悟はできてるか？」

ソニック「…」

ソニックはなんとかならないかと考えているその時足下にあるものがあつたそれを見てそれを見てソニックは笑みを浮かべる

ブラック「死ね！！」

ブラックが銃の引き金をひくとソニックはリングの肩をつかみ…

ソニック「カオスコントロールー！」

しゃばんー！

ソニックとリングは光に包まれて消えた

ブラック「な…！？」

ソニックは足下にカオスエメラルドだったのだ しかし何故カオスエメラルドがここ異世界にあるのか？ まあそこはおいといて：

しゅばあん！！

ソニック「ふう…危なかつた…」

リング「な…何なんだ今の一!?」

ソニック「カオスエメラルドって言ひ奇跡の宝石を使ってワープしたのさ」

そう言つてリングに赤色のカオスエメラルドを見せる

リング「へえ…綺麗だな」

やはり女の子なのがカオスエメラルドに素直に反応した

ソニック「やあこやじつねに来たまつたやど」何処だ?」

今ソニック達がいるのは周りは物が散乱していたり家などはもう瓦礫の山と言つてもいいだろうもつと分かりやすくてあとあの白銀の針鼠の住んでいる世界の一部と言つてもいいだう

リング「廃墟…?」

ソニック「滅びた村なのか…?」

ふとソニックが横を見ると看板があつたそこには：

滅び村

…と書いてあつた

ソニック リング「… そのまんまかよー」の村の名前…」

あまりにもそのままなので思わずリングまでもが突っ込んでしまつた

ソーシャク「こゝは滅びるためにある村か！？」

リング「…ん？」

ソーシャク「どうした？」

リング「あそこから煙が…」

リングが指差す先には確かに煙があがっていた

ソーシャク「行くか」

リング「ああ」

二人は瓦礫の山をジャンプしながら煙があがっているところにむかつた

ソニック「これは…」

リング「…」

煙があがっている周りには謎の影みたいに黒くてバイオハザードででくるような犬がいたしかもたくさん（変な例えですいません）

ソニック「こいつらは何なんだ？」

リング「わからない…だが嫌なオーラを感じる

犬「グギヤアアア！」

犬がいきなりリングに飛びかかってきた！

ソニック「リング！」

リング「はあーーー！」

ばしーー！

犬「ーー？」

なんとリング回し蹴りをして犬はその場に倒れた

ソニック「お前強いんだなーーー！」

リング「…いくぞ」

ソニック「ああーーー！」

二人は犬の大群に突っ込んで行つた

滅びた村と影の謎（後書き）

次回は……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3750z/>

とある冒険～星と星 時空と時空 運命の巡り合わせ～

2011年12月17日21時47分発行